

東北教区報 2026年2月号

あけぼの

発行所

日本聖公会 東北教区

仙台市青葉区国分町2-13-15

TEL 022-223-2349

FAX 022-223-2387

URL <https://nssk-tohoku.com/>

今号より「あけぼの」と北海道教区報「北海之光」は
巻頭言を共通化します

歩き続ける

司祭 エリサベト 三浦 千晴



を心がけていたものの、心はそれに反比例して日に日に重たくなりま

いた。例えばイエス様は、ご生涯を通じて歩き続けられました。それは、母マリアの胎に宿られた時から始まります。ガラヤのナザレに住んでいた父ヨセフは、ユダヤのベツレヘムまでの約110キロある道のりを、住民登録をするため身重のマリアを連れて旅をします。お腹にいたイエス様も一緒です。イエス様が出生された後もさらに旅は続き、ヘロデ王から逃れるためにエジプトに行き故郷に戻る、という壮大な旅をなさいました。

ゴタの丘への道のりを歩き通されました。

イエス様は出会う人々に「歩きなさい」とおっしゃいます。床に寝かされたままの中風のの人に、また死んだはずのヤイロの娘に、そして足の不自由な人に。イエス様の声を聞いた者たちは皆、歩き始めます。そしてイエス様は最期の時に、エルサレムに集まった群衆に向かい「闇に捕らわれることのないように、光のあるうちに歩きなさい。」(ヨハネによる福音書12:35)とおっしゃいました。この「歩く」という言葉には、「生きる」という意味も含まれます。イエス様にとって「歩くこと」は、「生きること」でありました。

東北教区と北海道教区が宣教協働の実践を始めてから3年になりました。最初に配られたポスターは大変印象深く、砂地を歩む人の足跡が描かれています。上に向かい歩みにくそうではあるものの、その足取りは着実に続いています。主とともに。

(北海道教区司祭

聖マーガレット教会牧師、

札幌キリスト教会協働)

昨年11月17日から21日までの5日間、北海道クリスチャンセンター主催の平和ツアーに参加しました。6年ぶりに再開されたツアーの行先は、長崎と広島でした。歩きに歩いた5日間、お天気にも恵まれて総歩数は66,000歩以上になりました。

太平洋戦争敗戦80年を迎えた昨年、一度も長崎、広島を訪れたことのなかった私にとって「行って見なければならぬ」という思いからこの旅は始まりました。なるべく身軽になって旅すること

のうちに失われた長崎の地。また続く広島の地も同様に、そこに在った全てのいのちが一瞬のうちに地上から消し去られ、また残ったものには原爆被害の痛みと苦しみが終わりました。苦難は今も続いている。そのことが身にしみました。そしてかの土地に立つたことに、責任を感じました。今も世界中の至る所で同じ悪が繰り返られていきます。そのことはどうにかして終わりにしなければならぬ。でもその道は遠い。そんなことを考えながら遠い目的地まで歩

各教区人権担当者会報告

人権担当 マタイ 山崎 薫

戦後80年の節目に当たり、長崎聖三一教会で12月3日午後から翌日まで開催された。

セッション1は、2歳で被爆し82歳になる長野靖男さんの証言。敗戦後は極貧生活が続き、弁当なしで登校し、修学旅行へ行けず、高校受験を諦め就職した。辛い小中学を経て、戦争のない平和な世の中にするための取り組みを始めた。その後、合唱仲間と被爆40年の記念曲を作成する中で被爆者の渡辺千恵子さんとの出会い、母親に抱えられながら核廃絶を訴えた車いすの語り部の生涯を紹介された。「核と人類は共存できない」その叫びをこれからも語り継いでいく、とても重いお話だった。

セッション2は、各教区人権担当者報告。東北教区は新地町の水曜喫茶支援、婦人会総会後のセーフチャーチ研修、ハラスメント委員会の研修等を報告。他教区の人権活動の取組みは、アイヌ民族委員会(北海道教区)、草津委員会(

働き(北関東教区)、改正障がい者差別防止法の合理的配慮と教会の役割を学ぶ研修(東京教区)、寿町プロジェクト(生活困難者支援、横浜教区)、野宿者への炊き出し活動(他教派と連携、中部教区)、西日本宣教協働区の人権担当者が集い8・6広島原爆記念礼拝参加、フラワーデモ参加(沖縄教区)等々、人権の尊重に係る具体的な活動の数々を知る機会となった。

セッション3は、NPO法人が運営する「長崎人権平和資料館」見学。理事長の崎山昇氏から展示資料について詳細な説明をいただきながら館内を一巡。日中戦争で侵略したアジア諸国での日本軍の蛮行の数々、背けたくなる写真。戦争は非道で究極の人権侵害であることを語っていた。

最後は「日本二十六聖人記念館」を見学。殉教者の血は教会の種との言葉を噛みしめながら館内を後にした。

準備いただいた皆様に感謝。

深川あけぼの保育園



所在地は深川市あけぼの町。本園は1973年設立で2019年4月に新園舎を建築し、保育園から認定こども園になりました。現在の園児数は40名で、深川市の端に位置し自然豊かな場所にあります。春や秋には白鳥などの渡り鳥が園の周りの田んぼに飛来し美しい姿を見せてくれます。本物との触れ合いを通して感動する「心」を育てる保育を心掛けています。

東日本大震災被災者 支援プロジェクト報告

12月の水曜喫茶は総勢13名でした。

九州(長崎、福岡、佐賀)、大阪、東京から6名の訪問参加がありました。また、訪問者の方をはじめたくさんのお友だちからの差し入れがありました。感謝です。

浅原からは「管区・原発問題プロジェクト」のホームページコラム「ぼやき」にも掲載した「柏崎・刈羽原発」の危険性についてお話をさせていただきました。

2カ月連続参加の音楽家牛



島氏からは素晴らしいソプラノ、Mさんからは日本舞踊のご披露をいただき、あつという間に時が過ぎました。

1月の水曜喫茶はお正月休みとし、次回は2月18日開催予定です。(リーダー 浅原和裕)

「東日本大震災15周年記念の祈り」と「講演会」のご案内

2026年3月11日(水)

14:15~15:00 記念の祈り

場所: 東北教区内会場教会

説教: 主教 マリア・グレイス 笹森田鶴師
(日本聖公会北海道教区 教区主教)

15:10~16:45 講演会

場所: 仙台基督教会(ライブ配信)

「津波のあとの十三浜に住み続ける」

講演: 佐藤 清吾 氏

(元 宮城県漁業協同組合北上町十三浜支所所長・元 女川原発再稼働差し止め訴訟原告団副団長)

(主催: 東日本大震災被災者支援プロジェクト)

各教区財政担当者

連絡協議会報告

11月28日、29日に、東京・ナザレの家を会場に標記協議会が開催され、33名が参集しました。

本協議会は2年に一度、管区定期総会の前年に開催されており、管区の決算見込や次年度予算、聖公会年金や収益事業など管区から説明や報告、

各教区から財政状況や課題の共有が主な議題です。加えて今回は昨年各教会にご協力いただいた「財政アンケート」の結果を共有し、信徒の高齢化・減少や献金減少が共通の課題となっている現状で、信徒や献金が増えている教会の取り組みから、財政を立て直

すためには宣教活動が必須であることを確認しました。地域の特性や信徒のタレントによる部分も大きくありますが、嘆くだけではなく試みることで、そういった心持ちであることが大切だと考えさせられました。アンケート結果は後日共有させていただきます。ご協力ありがとうございました。

(財政主査・

セント・クリストファー

赤坂 聖矢)

公 示

救主降生2025年12月17日
日本聖公会東北教区主教
主教 フランシス 長谷川 清純 ㊞

- 第110(定期)教区会の決議により、2026年1月1日付で、日本聖公会東北教区大館聖パウロ教会と日本聖公会東北教区能代キリスト教会を合併し、新教会名を日本聖公会東北教区大館聖パウロ教会とする。
- 第110(定期)教区会の決議により、2026年1月1日付で、日本聖公会東北教区の伝道所として、日本聖公会東北教区能代キリスト伝道所の設立を認可する。 以上

下記の人事異動を発令します。

司祭 パウロ 渡部 拓

2025年12月31日付 能代キリスト教会管理牧師の任を解く。

2026年1月1日付 能代キリスト伝道所管理を命ずる。

パウロ 浅原 和裕

2025年12月31日付 教区事務所主事の任を解く。

セント・クリストファー 赤坂 聖矢

2026年1月1日付 教区事務所主事を委嘱する。 以上

常置委員会報告

(第1回・11月24日)

協議事項

▼役割分掌について

・主教が仮議長となり、第110(定期)教区会で選出された常置委員で委員長を互選した結果、赤坂有司委員を選出した。

・常置委員長となった赤坂有司委員が議長となり書記を互選した結果、越山哲也司祭を選出した。

常置委員会報告

(第2回・12月17日)

主教諮問事項

▼教役者人事について諮問があり、適当である旨を答申した。▼2026年度信徒奉事者(分餐奉仕協力許可)推薦者について諮問があり、適当と認め推挙した。

協議事項

▼「教区事務所職員給与規程」改正を承認した。▼「旅費規程」ガソリン単価の特例措置について協議した。(閉会後のメール回議にて、2026年1月1日付で措置を撤廃し、

15円/kmに戻すことを決定した。)

▼第110(定期)教区会期の教区諸委員選任について。

総主事…八木正言司祭

総務主事…浅原和裕氏

教育主事…中村久美子氏

宣教主事…村上道夫氏

財政主事…赤坂有司氏

の留任を承認。また、教区事務所主事に赤坂聖矢氏を選任。

その他各グループ・部門長及びメンバーについても、各主事等からの推挙を基に検討し、

年度末までに委嘱状を送送する。なお、任期は2026年

1月1日から12月31日までとする。

ナホミ 北嶋 典子
(12月29日・能代)
パウリン 遠藤 和子
(1月1日・米沢)

永遠の平安



2月8日は「ハンセン病問題啓発の日」です。ハンセン病問題により苦しめられた方々を覚え、理解が深まるようお祈りください。

洗礼・堅信

2025年12月14日

「洗礼と堅信をうけて」

仙台基督教会 マリア 三浦 園子

この度、無事に洗礼堅信式を受けることができましたことを心から感謝いたします。長谷川清純主教様、八木正言司祭様、教父母の加藤晶子様、金友高史様みや子様ご夫妻、そして信徒の皆様には優しく導いていただきありがとうございます。

私が洗礼堅信を受けようと思ったのは二つのきっかけがあります。一つ目は、夫が仙台基督教会に通い信徒になったことです。毎週日曜日教会へ通う夫の姿、仙台基督教会の信徒の皆様温かさ、そしてイエス様を信じることの大切さを感じ、そして教えていただきました。

二つ目は、パイプオルガンとの再会です。大学時代、音楽の授業で学んだオルガンをもう一度弾きたいと思い、母校のオルガン講座を紹介していただいたのが教父母の加藤様です。講師の先生にオルガ

ン演奏はもちろんのこと、聖書との関連やコラール（讃美歌）について教えていただく過程でキリスト教について深く知りたいと考えるようになりまし。神様を信じるということは頭の中では理解できても、心の奥深い部分で納得できない時期がありました。教会の礼拝の説教を聞いていた時、自分の中で腑に落ちる瞬間がありました。今になると「神様のお導き」だったのではないかと思ひます。

これから教会の信徒としての教会生活が始まりますが、洗礼堅信式の時の気持ちを忘れずに一日一日を大切にしていきたいです。

皆様、どうぞよろしくお願い致します。



(左から3人目筆者三浦園子氏)

ウィリアムス神学館体験入学記

仙台基督教会 ヨハネ 三浦 智弘

神学校とはどういうところだろう、神学生の生活とはどういうものだろう、以前からそういう興味をもっていた自分にとって、体験入学の機会は本当にありがたいもので、まさに恵みであると思わされました。

10月初旬。仙台は朝晩に涼しさを感じられていたものの、京都はまだ暑く、一日を通じて半袖でも十分なほどでした。7日(火)から9日(木)までの2泊3日の日程。私を含めて体験入学者6名と神学生、館長の黒田裕司祭さまをはじめ各講座ご担当の先生方、そして厨房のお手伝いをされていた京都教区の信徒の方々とで緊張感もありながら和気藹々とした雰囲気の中で3日間を過ごしました。この機会でないとは知れない方々と時間を共有できた恵みに、ただただ感謝する次第です。

3日間のプログラムは館内の案内と「神学館の教育と生活」と題する概括的な説明に始まりまし。その後、「教理学」、「聖公会論」、「教会音楽」という正課の座学科目に加え、「霊性の形成と変容」というディスカッション科目、「牧師であること」という講演、そして「黙想」のセッションがありました。このなかで特に「黙想」のセッションでは、姿勢と呼吸を整えるという基本的な事柄の大切さもさることながら、「聴く」姿勢を持つことの意味の大きさに思いを致すことができました。また、参加者全員で図書室を見学した際に、昨年出版した拙訳書の紹介が黒田司祭さまからありまし。自分の訳書が神学館の蔵書になっていることに大変な光栄を覚えまし。実は加藤博道主教さまが寄贈されたとのこと、心から感謝申し上げる次第です。

3日間のプログラムのなかで学びを深め、知らないことが本当にたくさんあることに自身の勉強の足りなさを見せつけられるとともに、学びの面白さと高遠さを思ひまし。定時の礼拝を通して学んだことも多くありまし。食事の際や自由時間での、他の参加者の皆さんや神学生の方、そして先生方とのざくばらんな交流のなかで気づかされたこともたくさんありまし。得たことがたくさんありすぎて、それこそ枚挙にいとまがないというところなのですが、それらを一点に収斂させると、絶えず祈ることの大切さに気付くことができたというところに尽きます。学ぶにも、食べるにも、談笑するにも、何らかの祈りのかたちがあり、なおかつ祈りを基盤としていることに思いを致すことができました。

本当に貴重な3日間でした。体験をこれからの信仰生活のなかで生かしたいと思ひます。このような機会を得られた恵みそのものに感謝し、すともにも、体験入学にあたってご理解をくださった教区の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。

シリーズ
わたしの道の光ナザレ修女様たちとの
出会い

盛岡聖公会

モニカ 神原 静子

初めてナ
ザレ修女会
を知ったの
は、金子昭
三先生が執
事に按手さ

れた時です。婦人会会長から司祭館で、黒い布を受け取りました。金子先生のキャソック、お願いします」と。式服の意味も解らないまま「はい」と引き受けてしまったのです。「アングリカン型で村上秀久司祭と同じ型にしてください」と。キャソックという言葉もアングリカンという言葉も解りませんでした。そして東京へ行く方が修女会に寄り、型紙を借りてきてくださいました。その時に初めて修女会の存在を知りました。

私は37歳の時に大きな病気になり、先輩が私と3人の子

どものためにナザレ修女会の八千代霊母様にお祈りを願ひしてくださいました。その頃の私は、あと何年生きられるのかな、とっていました。修女様のお祈りに支えられました。

その後身体が回復し、修女様たちが十和田湖に来られることを知り、お礼を申し上げたく、婦人会の方と訪ねて行きました。それから毎年修女様たちが来られる夏は、修女会「夏の家」をお訪ねして

ある時修女様たちにお会いしたくなり、東京三鷹のナザレ修女会に一人で行きました。エピソード館に泊まっていたのは私だけでした。目の不自由な順霊母様の側でお手伝いの方にもお会いでき、美代志修女様に付き添っていらした方から「修女服など解いてくれるけど何かにならないかしら」と言われ、枕を作ることになりました。その時に「ナザレ修女会の記憶」を編集しておられた北川規美子さんとお会いしました。修女様たちのお働きの歴史が写真と共に載っている貴重な素敵な冊子

です。

エピソード館にあるクレア会のお二人に刺繍等、教えていただきました。入口には日に焼けたアングリカン型キャソックが掛けてありました。盛岡に帰り、金子執事様のキャソックを失礼かと思いましたが手に取らせていただきました。とてもきれいに繕われていました。きつと、今は亡き千代子夫人の手によるものと思いました。

教会のフェア、リネン、クロスやその他聖布、献金袋の刺繍など楽しみながら時間を掛けて仕上げています。修女様たちとの繋がりの中で、信仰の道を歩んでまいりました。先日は様名に移られました美代志修女様にお会いしてきました。修女様たちの今までのお働きに感謝し、健康をお祈りしております。

「祭服・式服などを刺繍・裁縫することは、一般の裁縫とは違い、オルターギルド(祭壇奉仕)の役割の一つです。一つ一つの針運びに祈りがこめられ、その瞬間が神への献げものとなります。(私たちの教会刺繍より)」



昨年10月22日、北関東教区小山祈りの家に併設の北関東教区墓地に関係者が集い、聖ヨハネ修士会(SS

JE)日本管区解散50周年記念および逝去者記念式が献げられました。小山修道院創立(1935年)と創生に尽力されたケネス・アボット・ヴァイアル主教も記念されました。

師は1893年12月19日米国マサチューセッツ州に誕生。ハーバード大学、ジェネラル神学院、ハーバード大学院に学び、1919年少年期より強い志望であった修道生活を求め聖ヨハネ修士会に入り、1923年ボストン郊外ケンブリッジの修士会本院にて終生誓願。1935年来日、聖三一教会米人会衆管理、立教大学と聖公会神学院講師、等。1940年帰米。1947年米国聖公会駐日代表として再来日、日本聖公会復興事業従事、聖公会神学院校長。1951年東京教区補佐主教、1

955年引退。米軍チャペレン。東京東久留米修道院開設、修院長。小山修道院長、修士会日本管区長。1974年1月3日大聖病院で首座主教大久保直彦主教、後藤真主教らが見守る中、永眠。80歳。1月9日東京教区葬。3月7日東久留米修道院礼拝堂にて逝去者記念式埋骨式。白木の墓標は竹田鐵三神父の筆に依るもので、「遺骨はこの墓標の下に納められる。彼の願いが叶い日本の土、修道院の庭に眠る。アアよかった。ソノためであった。」と追悼。

十和田湖畔ヴァイアル山荘は1934年に修士会が「招仙閣」を譲り受け黙想の場とし、1976年東北教区に寄付。この地を愛された主教の名を後世に残すため「ヴァイアル山荘」と改名し、現在に至る。戦後の日本聖公会の霊的再生に尽力された主教「静かな中にも篤き信仰、福音の行動者であった」主教の存在を、私たちは山荘がある限り語り継いでいきたいと思っています。師のパラダイスにおける平安をお祈りします。(教区主教)



八戸聖ルカ教会

11月初めのヴァイアル山荘秋祭り&閉所式は、熊の影響により中止となりました。身近な存在でもあり、自治体の熊出没情報を確認することが日課となりつつあります。

もう一つ身近な存在。12月の降臨節は、青森県東方沖地震で始まりました。ほぼ毎週のように地震が発生する三八上北地方ですが、21日、降臨節第4主日礼拝の日でした。10時29分頃、突然震度4の揺れが。礼拝開式の鐘が鳴り終わった直後だったように記憶しています。地震が身近な信徒たちは、動揺せず、落ち着いて聖歌を歌い始めました。鐘といえば、毎年行われている八戸市民クリスマス。会場はカトリック教会で、今回は「ハンドベルで祝うクリスマス」がテーマでした。地元短大OB・OGによる演奏でしたが、頭より大きなベルを

回し、見たことのない様々な技法を駆使した美しい演奏はまさに圧巻でした。教区信徒の皆様にも、いつか鑑賞していただきたいです。

最後に、21日から25日降臨節日礼拝まで、週三日お出でいただいた越山哲也司祭に、心より感謝申し上げます。

盛岡聖公会

私たちの教会の礼拝宣教連絡協議会はクリスマスやイースター大礼拝の準備のために開催され、各グループの代表が集まります。教会委員、信徒奉事者、聖徒アンデレ同胞会(BSA)、婦人会、日曜学校、幼稚園・こども園、聖歌隊、オルガニスト、サバー、オルター、アッシャー、ホームページ担当があり、重複して奉仕しています。

盛岡聖公会婦人会は、11月30日に「ありがとうの会」を開催して12月31日に閉会することになりました。これを機会に各グループで近況を話し合いました。7名の信徒奉事者は「み言葉の礼拝」の司式をしています。昨年1月の堅信受領者総会で、女性34名中、

婦人会員は18名、男性14名中、BSA会員が2名です。グループに属していない信徒が多く、これからは性別ではなく、それぞれが持っているタレントで教会を動かしていくことになるでしょう。

能代キリスト教会

昨年12月24日イブ礼拝は26名の参加者で行いました。楽器コカリナメンバー11名とオルガニストの献奏、プラス信徒3名、プラス市民参加11名によるもの。隔月実施の聖羊レコード・コンサートを礼拝に代え、降臨日前夕礼拝式文に従い実施したものです。礼拝は聖歌「もろびとこぞりて」に始まり、祈りと聖書朗読、聖歌と交互に行われ、福音書の朗読は元日本基督教団の牧師丹波望氏に頼み、献金、代祷、祝福、聖歌で締めくくりました。その後ハンドベルやコカリナでの「ジングルベル」「アメージンググレイス」の演奏などがあり、和やかな雰囲気で終了しました。ホールにて持ち寄りのお菓子とお茶で交流会も行われ、午後4時には散会。

能代キリスト教会の名前で寄稿するのは今回で終わり、今後は、能代キリスト伝道所の名前で寄稿することとなりますが、変わらぬご支援をお願いいたします。

磯山聖ヨハネ教会

十年一昔というなら、とうに一昔は過ぎた。千年に一度といわれる大津波は、ゆるやかに打ち寄せ当時の面影などみじんもない。

教会は新しくなり、跡地は「祈りの庭」として整備され煉瓦碑で造られた。天気にもよるが、祈りの庭で礼拝も行った。今年は、1回目は3月7日、6月と9月にも予定している。

町にはいろんなサークルがあるが、接することが少ない。琴。尺八。教会での和楽器のひとつときをお願いした。中に「荒城の月」を入れてほしい。

秋陣営の 霜の色
鳴きゆく雁の 数見せて
植うる剣に 照りそいし

2026 宣教活動方針

耳を傾けよう「やさげ」「聞く」ために

——共に担う宣教

むかしの光 いまいずこ
ビュンビュンとはねる琴の弦
は今にも切れそうで、ゴオン
ゴオンとうなる尺八は、植え
られた剣に戦争の愚かさを
語っているようだった。光は
消すまい。忘れまい、3月11
日。緑陰コンサートが光がと
もった。大切な光だと思ふ。

2月逝去者記念聖餐式

2月4日(水) 午前10時30分、
於 主教座聖堂
司式・説教 長谷川清純 主教

伝道師 横田 秋生

1923年2月4日逝去
宣教師 Miss Beta R Babcock

1943年2月4日逝去
執事 戸所芳一

1971年2月7日逝去
主教 ダビデ谷昌二

2022年2月9日逝去
主教 Norman Spencer Binsted

1961年2月20日逝去
伝道師 桑野 文子

1941年2月22日逝去
主教 Shirley Hall Nichols

1964年2月25日逝去